

トホクのブロッコリー栽培方法

発芽適温：20～25℃ 生育適温：15～20℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2～3年あける

1.作物特性 ブロッコリーはとう立ちした花蕾を収穫する野菜です。大きくしっかりした花蕾を作るためには、株を丈夫に育てることがポイントです。特に春まきでは株が十分に育っていない状態で低温にあたると「ボトニング（早期出蕾）」と言って小さな花蕾しかできず、すぐにゆるくなって花が咲き出します。しっかりとした株を作り、気温が低い場合は必ず保温資材等使って管理します。家庭菜園ではわき花蕾も連続して収穫できる品種や、スティック品種も人気です。

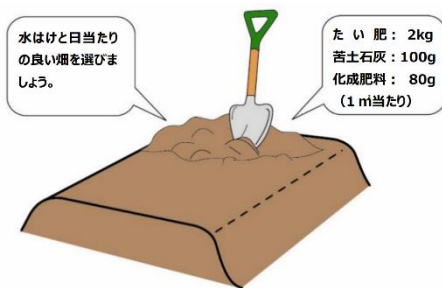
2.タネまき 連結ポットなどに約1cmの深さでタネを数粒ずつまきます。気温が高い時期は発芽までは直射日光の当たらない軒下など涼しい所において管理します。



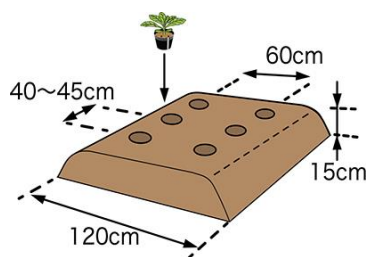
間引きは残す苗が傷まないようにいねいに行います。水やりは軟弱徒長にさせないために「夕方にはポットの土の表面が乾く」程度に朝のうちにやりましょう。

春まきは温床での育苗が必要になりますが、暖かい所で育てた苗を植えつけの時にいきなり外の寒さや霜に当たると枯れてしまいますので、“馴化”と言って徐々に寒さに慣らします。

3.植えつけ ブロッコリーは乾燥には強く過湿には弱いのので、排水の良い畑を選んで作りましょう。



タネまきから約3週間後、本葉5枚目頃が植えつけの適期です。植えつけは天気がよい日を選び、深植えを避け、その後しっかりと水をやります。



4.栽培管理 生育初期にはコナガ、ヨトウムシ、アオムシなどの害虫が発生します。食害は収穫の遅れや枯死の原因となりますので、農薬などを適切に使って防除することも必要です。植えつけから約3週間後、株がしっかりしてきた頃に追肥をします。1㎡当たり化成肥料50gを株元に施し、除草を兼ねて中耕します。



5.収穫 中心の花蕾が10～13cm位になったら収穫適期です。取り遅れると花蕾の形が崩れて美味しくなくなります。また腐敗しやすくなります。花蕾周りの葉を傷つけるとわき花蕾の発生が損なわれますので、注意しましょう。



中心の花蕾を収穫したあと、追肥をするとわき花蕾の収穫が楽しめます。1㎡当たり化成肥料50gを株周りに施します。しばらくするとわき花蕾が伸びてきますので、切り取って収穫します。

6.スティックタイプの収穫 普通のブロッコリーと同様に育てますが、中心の花蕾が見えてきて4～5cmになったらそれを切り取ります。なるべく小さいうちに、また天気の良い日に斜めに切り取ると切り口も早く乾き、病気の侵入も防げます。こうすることでわき芽の発生が促されます。

